

日日進步

會報文中の[番号]は、会員番号を示します。
Hong Kong Public Transport Tourism Association ©

「オープントップが取れない!」「決行か、中止か!?!」「何時からにするの?」東京-香港で飛び交うメール。例年にない大騒ぎを経て、第7回トラムパーティ2013年12月7日(土)開催。当日は意外な車両が現れ、参加者は大喜びです。海鮮酒家「金御」宴会から車上のパーティまで、田中夫妻がリレーレポートしてくれました。

120號でゆく、トラムパーティ

田中光輔 [035] 田中のり子 [034]

▶ 私たち夫婦にとって、今回は初めてのトラムパーティー。乗車前の腹ごしらえでは、豪勢なカニ料理も“搭乗”ならぬ登場し、カニに目のない妻は私の分まで食べてくれました。時間が迫り、華やいだ食事を急ぎ立てられるように後にしたことで、どんどんパーティーへの期待感が膨らんでいきました。

せっかくならと通常のトラムに乗ってスタート地点に移動(在住の尾崎さん、お世話になりました)。ひと昔前の停車場という呼び名がふさわしい薄暗い石塘咀站。気持ちを落ち着け、長丁場に備えてしばし“放水”。

いよいよ出発進行! 赤や黄色の看板がカクテルライトのように通り過ぎていきます。あわててビデオの撮影開始。前に後ろに上に下に……。

以下、かみさんの搭乗記に続く——。

(光輔)▶

▶ 夫は完璧に書き忘れていますが(笑)、今回のパーティーの最大のポイントは一般車に乗ったことでしょう。7回を数えるHKPTA主催トラムパーティーの歴史でも初の試み、というかパーティー専用車が混み合っていたからのようでしたが……。

でも結果的に大正解。なんと伝説の120号が私たちを待っていてくれました。まず普通のトラムとたまたま違いが違う。例えるなら、酸いも甘いも噛み分ける渋い大人の雰囲気。内装もカッコいい。ニスで塗られた木製の窓枠に座席、使っている色といえば緑ぐらいでシンプルな美しさがある。

「話しかけるな」という貼り紙があっても運転手さんと楽しく会話、の場面(笑)。→



ここではたと疑問が。「120号といえども一般車。普通に走っているトラムでお酒を飲んでいいの?」。心配は無用でした。乗るやいなや「カンパイ!」。おいしいお酒とおつまみ、楽しいおしゃべり。手作りのホットワインで心も温まり、田村さん夫妻発案の酒瓶置き?も威力を発揮。サイコーです。

それにしても、普段なら大勢の乗客でぎゅうぎゅう詰めの中で、禁断のお酒を飲み、わいわいできるとは。「話しかけないでください」と注意書きが貼られた運転席に近づき、運転手さんと会話も。そこにはいつもとは違うトラムがありました。

銅鑼湾のホテル近くでのトイレ休憩をはさんで、せわしい香港の街を「チンチン」「ゴトゴト」とのんびり走り、中環站到着。楽しい旅を終えました。

(のり子)▶



【理事より・トラム関連連絡】

☆トラムパーティ不参加で、2月17日パーティにも来られない方、今回の会報におみやげを同封します。内容はお馴染みの粉末飲料シリーズ。ミルクティはご存じの方も多いでしょう。もう1種類は豆漿。まず50cc程の水かお湯で溶いてから、さらに150ccほど加えると溶けやすいようです。どうぞお試しください。そしてぜひ、次回は車上でご一緒しましょう。

☆パーティのオマケとして、小柳会長が「香港トラムの変遷」を写真入りでまとめた印刷物を作ってくれました。今回、こちらも同封します。





香港は20世紀後半から加速して、時代を駆け抜けてゆくような都市となりました。新しいものが次々導入され、街の変化は速く、都市の風貌も数年で変わってしまうほどです。とはいえ、いつでも前だけ向いて疾走しているのって疲れませんか。たまには過去を振り返るのもよい気がします。昔の本を読んでみませんか。

『香港旅の雑学ノート』（山口文憲）は1980年代香港街歩きのパイブル。藤原新也『台湾韓国香港逍遙遊記』は重たっ苦しいねっとりとした九龍と新界の光景が延々と続く。小説『香港』（邱永漢）は戦後の混沌とした香港の描写から、その後のパワフルな自主自律と商業主義の芽を感じる。中文が読める方はそちらもお勧め。

陳舜臣『阿片戦争』は香港誕生の契機となったアヘン戦争を描いた小説。高層ビルどころか石造りの建物さえなかった、華南の小島がHONG KONGに変貌するスタートライン。煌びやかな現代香港のプロムナードでふとこの一節を思い起こすのも一興かもしれません。おっと沢木耕太郎『深夜特急1 香港・マカオ』も忘れるわけにはいきません。

HKPTAのWEBサイトのなかで私のMYページは香港読書案内です。たくさんの香港関係の本を紹介しています。一度ご覧くださいね。



香港（に持って行くもの）と言えば。

[003] 田村 善隆

あなたの
essential
Hong Kong
香港定番

誰でも旅行に出かける際に必ず持って行くものがあることと思います。もちろん私（会計長）にもノートパソコンや予備のメガネやサンダルといろいろありますが、そんなのは空港で忘れたのに気がついても置き去りにできるものですが、ひとつだけパスポートと同等な忘れない基準を適用しているものがあります。それは……今回は会計長のささやかな秘密をカミングアウトしちゃいます。

皆さん、香港で『通渠』という文字を目にしたことはありませんか？、ヒントは配電盤や電柱。そう！油性ペンで殴り書きをした広告です。『通渠 3456-7890』のように目的+電話番号のみの超シンプルなゲリラ広告です。

香港の水はとても硬度が高く、配管にカルシウム分が付着しやすくしてしょっちゅう詰まるんだそうです。『通渠』とはそんな配管の詰まりを解消させるサービスで、日本の「小さなマグネットに広告を入れたのをポスティングして、冷蔵庫に貼って水のトラブルの際はココに電話！」みたいな業者と同類です。

会計長は香港ではとにかくよく歩きます。滞在中に何十キロも歩いているはずですが、たいてい2日目くらいから、股の間とか、尻の谷間のような歩くとこすれる微妙な部分がヒリヒリと腫れてしまって、とても不愉快な状態になってしまうことがよくありました。日本では何ともののに何でだろう？と原因を考えたところ、『通渠』を見てピカリと香港の水のせいだ！と思うに至りました。



そしたら何か塗ればいいじゃんとさっそく次の回に、家にあった『キシロカイン軟膏』を風呂上りに微妙な部分に塗ったところ一発で悩み解消となり、以来渡航の際の持ち物リストでパスポートの次くらいの地位に収まることとなりました。香港の水は肌には最悪なので美肌を気にする方は気を付けたほうがいいですよ。

ちなみに『通渠』を書く現場を一度だけ見たことがあります。油性ペンを手に所在無げに歩いていたオッサンが目にも止まらぬ速さで配電盤に殴り書きをして雑踏に消えてゆき、犯罪現場の激写どころではありませんでした。

「旅の必携品」「最強おみやげ」「思い出の品」など、みなさんの「香港といえば」のアイテムを教えてください。今後会員各位に執筆依頼していきます、ご協力よろしく！



前号の会報が幽霊のような色合いでプリントアウトされ、変だなと思ったらプリンターがご臨終となりました（ご臨終といえば、年明け早々、香港ショウブラザーズ映画の創設者、ランラン・ショウが亡くなりました。106歳）。

今回から新しいプリンターです。せっかくですから、今年は刊行回数を増やしたい……それには会員みなさんの温かい寄稿が必要です。いろいろご依頼しますが、今年もよろしくお願ひ申し上げます。右の写真はパーティ車両となった日の120号、行先表示板です（会報担当・002）

